天武天皇　下

【え】

04
於是天皇驚え
是に天皇驚きて

06
久淹留え
久く淹留(とど「)めたらば

更以錦繡潤飾え
更に錦繡(にしきのぬひもの)を以て潤飾(かざ)る

則自筑紫返え
則ち筑紫より返しつ

07
金承元罷歸え
金承元罷り歸りぬ

09
天皇大悲え
天皇大きに悲びたまふ

11
皆除え
皆除(や)めよ

随事罪え
事に随ひて罪せむ

13
即自筑紫歸え
即ち筑紫より歸る

15
若有犯者罪え
若し犯すこと有らば罪せむ

17
以歸え
歸(まかりかへ)る

18
死え
死ぬ

19
天皇御嶋宮宴え
天皇、嶋宮に御して宴(とよのあかり)したまふ

21
臣連伴造之子及國造子聽え
臣、連、伴造の子及び國造の子をば聽(ゆる)せ

其才能長亦聽え
其の才能長(いさを)しきのみは亦聽せ

22
飢え欲賣子
飢えて子を賣らむとす

23
天皇聞え
天皇聞しめて

百姓飢え
百姓飢えす

25
悉赦之
悉く赦せ

天皇聞之
天皇聞しめて

28
肅愼七人從清平等至之
肅愼七人、清平に從ひて至(もうけ)り

29
即從筑紫歸之
即ち筑紫より歸(まかりかへ)る

30
是月旱之
是の月に旱す

於京及畿内雩之
京及び畿内に雩(あまごい)す

31
故降大恩以原之
故に大きなる恩を降して原(ゆる)したまふ

32
皆隨願度之
皆願いに隨ひて度(いへで)せしむ

33
因給復郡内百姓以一年之
因りて郡内の百姓に給復(つきゆる)したまふこと一年

34
而天下悉祓禊之
天下悉く祓禊(おほみはらへ)す

卜之
卜ふ

34
天皇臨之
天皇臨(みそなは)して

悉赦之
悉く赦す

三位稚狭王薨之
三位の稚狭王薨る

35
輕緣小故而辭者
輕しく小故に縁りて辭(さ)れらば

36
是月筑紫國大地動之
是の月筑紫國大いに地動く

以消勿等皆散之
以て消勿等、皆散(あか)れて

37
隨事罪之
事に隨ひて罪す

39
為先鋒之
先鋒として

吉備大宰石川王、病之
吉備大宰石川王、病して

天皇聞之大哀
天皇聞しめて大いに哀(かなし)びたまふ

40
而可加加之可除除之
加すべきは加し、除くべきは除き

41
身命亡之
身命亡び

子孫絶之
子孫絶えむ

然今如一母同産慈之
然れども今一母同産(ひとつおもはらから)の如く慈(めぐ)まむ

42
以随召出之
召さむ随に出せ

43
遣新羅使人等返之
新羅に遣せる使人等、返(かえ)りて

遣高麗使人遣耽羅使人等返之
高麗に遣せる使人、耽羅に遣せる使人等、返りて

朕聞之
朕聞く

煩之忍而不治
煩はしとおもひて忍びて治(かむが)へず

倦之
倦(おこた)りて

46
大辟罪以下悉赦之
大辟罪より以下悉く赦す

48
則異以獻之
則ち異(あやし)びて獻(たてまつ)る

49
則除之
則ち除(や)めよ

50
丁巳電雷之甚也
丁巳に雷電すること甚し

51
而落之
落ちたり

是日雩之
是の日、雩(あまごい)す

遣大津皇子高市皇子而弔之
大津皇子、高市皇子を遣して弔う

納言兼宮内卿五位舎人王病之
納言兼ねて宮内卿五位舎人王、病して

則遣高市皇子而訊之
則ち高市皇子を遣して訊(とぶら)はしめたまふ

因以臨殯哭之
因りて殯を臨して哭したまふ

52
乃俾馬的射之
乃ち馬的(うまゆみ)射(い)させたまふ

53
而賑給之
賑へ給(たまひ)す

日蝕之
日蝕(は)えたり

而弔使留之
弔ひたてまつる使の留(とど)りて

54
則為皇后誓願之
則ち皇后の為に誓願(ちか)ひて

乃遣三皇子而弔之
乃ち三の皇子を遣して弔はしめたまふ

丁酉天皇病之
丁酉、天皇病す

俄而愈之
俄(しばら)ありて愈(い)えぬ

55
而宴之
宴(とよのあかり)したまふ

56
詔之
詔して

58
因以詔之
因りて詔して

60
凡百寮諸人恭敬宮人過之
凡そ百寮諸人、宮人を恭敬(うやま)ふこと過ぎて

随事共罪之
事の随(まま)に共に罪す

甲午高麗卯問歸之
甲午高麗の卯問歸りぬ

乙卯雩之
乙卯雩(あまごい)す

61
朱雀見之
朱雀見ゆ

皇后誓願之
皇后誓願して

63
遣高麗新羅使人等共至之
高麗、新羅に遣しし使人等、共に至りて

64
日蝕之
日蝕(は)えたり

皆親乗之
皆親ら乗れり

67
被給食封皆止之
給はりし食封(へひと)、皆止めて

68
乃聽之
乃ち聽(ゆる)す

結訖之
結(あ)げ訖(おわ)れ

倭漢直等男女悉参赴之
倭漢直等の男女悉く参赴(まうおもぶ)きて

70
大隅隼人勝之
大隅の隼人勝ちぬ

天皇驚之大哀
天皇驚き大(いた)哀びたまふ

道俗悉見之
道俗悉く見る

71
方後考之
方に後に考(しなさだ)めむ

皆赦之
皆赦す

72
跪禮匍匐禮並止之
跪禮・匍匐禮、並に止めよ
73
悉可聽之
悉く聽くべし

起當處兵而捕之
當處の兵を起こして捕へよ

節級決之
節級にして決(う)て

74
斟酌其狀而處分之
其の状(かたち)を斟酌して處分(おこな)へ

75
而宴之
宴したまふ

76
大至之
多に至れり

則應之
則ち應(こた)ふ

皆赦之
皆赦す

77
丙午遣多禰使人等返之
丙午、多禰に遣しし使人等、返れり

天皇大驚之
天皇大いに驚く

而弔之
弔う

葬之
葬(はぶ)る

78
庚子雩之
庚子雩(あまごい)す

旱之
旱す

百済僧道藏雩之
百済の僧道藏雩す

81
是以百寮者各往之
是を以て百寮各おの往(まか)りて

82
群卿侍之
群卿侍る

射之
射(いく)はしむ

83
皆免之
皆免(ゆる)したまふ

来年九月必閲之
来年九月必ず閲(けみ)せむ

並罰之
並(ならび)に罰(かむが)へしむ

大山位以下者可罰罰之
大山位より以下は罰すべきは罰へ

可杖杖之
杖(う)つべきは杖たむ

及結紐長紐任意服之
結紐、長紐、意の任(まま)に服(き)よ

85
六月辛巳朔甲申雩之
六月辛巳朔甲申雩(あまごい)す

87
人民及六畜多死傷之
人民及び六畜、多く死傷(そこな)はる

89
則隕之
則ち隕(お)ちたり

與昴星雙而行之
昴星と雙(なら)びて行く

93
即從筑紫歸之
即ち筑紫より歸りぬ

仍流着新羅人七口附物儒還之
仍ち流れ着ける新羅人七口を物儒に附けて還す

壬辰新羅人金主山歸之
壬辰新羅人、金主山歸す

94
乃學問僧觀常雲觀從至之
乃ち學問僧觀常・雲觀從ひて至る

95
遣耽羅使人等還之
耽羅に遣(つかわ)せる使人等、還れり

97
遣高麗國使人等還之
高麗に遣(つかわ)せる使人等、還れり

爲天皇體不豫之
天の皇體、不豫(やまひ)したまふが為に

99
為天皇招魂之
天皇の為に招魂(みたまふり)しき

100
辛巳自西發之
辛巳西より發(おこ)りて

101
以俗供養養之
俗の供養を以て養(く)れき

103
爲之度僧三人
爲に僧三人を度(いへで)せしむ

雪之
雪ふる

105
是日待侍醫百済人億仁病之
是の日に侍醫百済人億仁、病して

癸丑勅之
癸丑に勅して

即從筑紫退之
即ち筑紫より退く

106
庚辰雩之
庚辰雩す

丁亥勅之
丁亥勅し

乃大齋之
乃ち大いに齋(おがみ)して

庚寅名張厨司災之
庚寅、名張厨司に災(ひつ)けり

107
是日大赦之
是の日、大赦す

111
乃退之
乃ち退く

即誄之
即ち誄(はかりたてまつる)る

112
僧尼發哀之
僧尼發哀(みねたてまつ)る

而誄之
誄(しのびごとたてまつ)る
各誄之
各誄(しのびごとたてまつ)る

【者】
41
不如此盟者
此の盟の如くにあらずば

43
其随見聞以糺弾
其の見聞(みき)くに随ひて糺弾(ただ)さば

53
若有利国家寛百姓之術者
若し国家に利あらしめ百姓を寛(ゆたか)にする術有らば

73
若對捍以不見捕者
若し對捍(こば)みて以て捕(とら)はれずは

則不伏辨以爭訴者
則ち伏辨(うべな)はずして以て爭ひ訴へば

81
若有死病不得集者
若し死病ありて集はることを得えんや